



奉祝平成29年明治天皇御親祭150年祭
未来につなげるまつりの心

氷川神社
社報 第一号

武蔵一宮





明治天皇行幸繪卷 (氷川神社蔵)

||| 発刊挨拶 |||

当氷川神社では昭和四十六年頃まで「八雲」、「氷川」の名称で社報を発刊し、祭典行事の御報告や御案内、御婚儀を挙げられた新郎新婦の門出を祝しておりました。本年は明治天皇御親祭百五十年の嘉節に当たる為、社報を復刊する運びとなりました。古く、鎌倉時代の『御成敗式目』には「神は人の敬によって威を増し、人は神の徳によって運を添う」といわれています。この社報により氷川の大神様の御神徳が、氏子崇敬者の皆様へ広く遍く行き届きますよう御祈念を申し上げます。



未来につなげるまつりの心

明治天皇は慶応四年（一八六八）八月に第二百二十二代天皇として御即位後、十月十三日に江戸城に御入城、新たに東京が都となりました。さらに同月十七日には上掲の氷川神社を武蔵の国の鎮守勅祭の社と定めた勅書を発せられました。この勅書は中世以降の政道の衰えを敬神崇祖の精神に基づいた道に復する事を明らかにされている為「祭政一致の詔」とも申します。これはおよそ千年前に桓武天皇が都を平安京にお遷しになられた際に山城の国の鎮守であった加茂社を篤く信仰された御例に因られたものです。迫りくる危機的な国際情勢の中、明治天皇は新時代を切り開くにあたりその御決意を氷川神社の御神前で御親祭を執り行う形でお示しになりました。御入城後わずか十五日後の十月二十八日の事です。明治天皇の私心の無い大御心は受け継がれ、先の大震災の折には今上陛下のお姿に国民等しく感動致しました。明治天皇の御事跡を語り継ぐ事は国家の安寧と国民の幸せを祈り、一人一人が我が国を良くしていく決意を再確認する事に他ありません。



明治戊辰大宮氷川神社行幸在所之図

右の図は日本画家の福田恵一氏により描かれた行在所の様子です。行在所とは天皇の行幸時の仮の御殿です。2ページに掲載の行幸絵巻に描かれた人々は兵隊、公達、輿丁など様々で衣装も洋服や、和装の正装である衣冠や直垂など移り行く時代背景を反映しておりました。大久保利通などの重臣もおり総勢五百四十人以上、距離は一キロを超える壮観さでした。

明治天皇御親祭五十年祭

大正六年の御親祭五十年祭にあたりましては岡田忠彦埼玉県知事を中心とした祝祭奉斎会が組織され神門（現在はありませぬ）の造営が行われ記念祝祭が十月二十八日より十一月三日まで七日間にわたり盛大に行われました。

大正天皇におかれましては宮内省を通し大正六年（一九一七）十月九日に幣帛料を下賜あそばされ、有栖川宮、伏見宮、閑院宮、東伏見宮、久邇宮、竹田宮、朝香宮、北白川宮、梨本宮、華頂宮の各殿下からも玉串料の御奉納を頂いております。祭典は同年十月二十八



裕仁親王御参拝(第二鳥居)

日、宮司以下神職を始め県内神職、県内関係官庁役員の参列のもとに斎行され、皇室の御安泰と万民の幸福を祈念致しました。また大正六年十一月十二日には明治天皇御親祭五十年祭に際し裕仁親王（昭和天皇）の御参拝を頂いております。



明治天皇御親祭百年祭



昭和天皇・香淳皇后 御親拝(楼門前)

昭和四十二年は明治天皇が明治元年に当社に御親祭を賜り維新の鴻業をおこされ、近代日本の基をお開きになってから百年の嘉年にあたりました。記念大祭を執り行うべく設立された奉賛会には、旧武蔵の国一円から至誠の御奉賛が寄せられ、本殿以下諸建物の改修（檜皮葺きから銅板葺きの屋根になりました）、境内摂末社の新築、改築をはじめ神苑の整備が行われました。昭和三十九年の社殿の修営工事に際しては三宮家（秩父宮、高松宮、三笠宮）をはじめ旧宮家からも幣帛料の御奉納があり、本殿遷座にあたっては勅使の御差遣を賜りました。

昭和天皇皇后両陛下におかれましては四十二年十月二十三日に御親拝を賜っております。また明治天皇第七皇女で伊勢の神宮の祭主を御奉仕なされました北白川房子様からは左の祝いのお歌の御献進がありました。

御歌

とこしえに 氷川の神の 大みいつ

栄えますすらむ 千代に八千代に



奉祝祭

御親祭百五十年祭
奉告祭

十月二十一日(土) 午前十時

御親祭百五十年祭
前日祭

十月二十七日(金) 午前十時

御親祭百五十年祭
(大祭)

十月二十八日(土) 午前十時

御親祭百五十年祭
後日祭

十月二十九日(日) 午前九時



御親祭百五十年奉祝行事

神事芸能

九月十日

吟道奉賛会

九月十七日

豊前神楽、氷川太々神楽

十月四日

氷川雅楽会観月演奏会

十月十四日

石見神楽、氷川太々神楽

十月十五日

奥氷川神社獅子舞

武道

四月二日

大宮剣道連盟剣道形奉納

四月五日

桜祭弓道大会

五月二十八日

小笠原流弓道

九月二十四日

居合道奉納演武

十月七日

氷川場所手数入の儀

十月七日

埼玉太極拳協会奉納演武

文化

三月二十日

埼玉県煎茶道連盟献茶式

四月二十二日

埼玉県茶道協会茶会

六月三十日

書元会書道廻廊展示

九月二十三日

表千家献茶式

九月三十日

埼玉県茶道協会茶会

十月十一日

裏千家献茶式

十月二十一日

大宮華道連盟献華式(二十三日まで廻廊展示)

十一月一日〜十五日

武蔵菊花会菊花展



埼玉県煎茶道連盟献茶式(3月20日)



奉祝
記念事業
施行概要

明治天皇御親祭百五十年祭



楼門内廻廊



記念碑完成予想図

奉賛金額		奉賛者石碑文字入れ		祭典案内		感謝状・記念品		その他
〈会社・団体〉 百万元以上	〈会社・団体〉 五十万元以上	①奉賛金額 会社・団体の場合： 会社名一社・団体名一団体と代表者一名	②奉賛金額 個人で奉賛の場合：個人名一名	奉 祝 祭 ご案内は 代表者一名様 のみ	感謝状 奉祝祭特別限定記念品	感謝状 奉祝祭特別記念品	感謝状 奉祝祭特別記念品	刻銘場所等については御一任下さい。 領収書は紛失しない様、保管下さい。
〈会社・団体〉 十万元以上	〈個人〉 五万元以上	①奉賛金額 会社・団体の場合： 会社名一社・団体名一団体 個人で奉賛の場合：個人名一名		※ご案内は 平成二十九年 九月末日まで にお申し込み された方です。	感謝状 奉祝祭特別記念品	感謝状 奉祝祭特別記念品	感謝状 奉祝祭特別記念品	
〈個人〉 三万元以上	〈個人〉 一万円以上	②個人名一名	石碑に奉賛金額・名前入れはありません。					

- == 記念碑名称 == 明治天皇御親祭百五十年祭奉祝記念碑、及び記念事業奉賛者銘碑
- == 記念碑建立地 == 氷川神社境内
- == 石畳施行地 == 楼門（神門）内の廻廊等
- == 施行期日 == 平成三十年二月以降
- == 募金目標 == 五千万円以上
- == 会社・団体御奉賛金額 == 一口金十万円（何口でも可、御奉賛金には、記念碑建立、記念事業の区別はありません）
- == 個人御奉賛金額 == 一口金一万円（何口でも可、御奉賛金には、記念碑建立、記念事業の区別はありません）
- == 募金期間 == 平成二十九年二月一日より平成二十九年十二月末日
- == 申込方法 == 申込書に御奉賛金を添えて氷川神社社務所、又は神札所までお申し込み下さい
（銀行振込みを希望の場合は、その旨申し出下さい）
- == 御奉賛待遇 ==

記念碑建立事業奉賛者御芳名 平成二十八年十月〜平成二十九年二月

※申込順、敬称略、お名前等の誤りがございましたらご容赦願います。

奉賛金の受付を開始して以降、多くの御篤志を頂戴致しております。ここに皆様のご芳名を御紹介し感謝を申し上げます。

法人

百万円

株式会社橋本昭司記念駐車場 橋本 洋子

国際観光興業株式会社

代表取締役 河野 見義

五十万円

有限会社一の家

小田 晋

二十万円

八雲陸会

十万円

ベラ株式会社すがた美容室

大宮西口共同ビル株式会社

有限会社大村庵

氷川如月会

株式会社好宮アンドアソシエイツ

個人

三百万円

内田 聖

大野 隆司

橋本 洋子

五十万円

新藤 享弘

さいたま市名誉市民

中神 健一

福永 信彦

中村 明子

井山 一男

石井 勝利

近藤登志夫

吉田 昇司

江坂 照男

片渕 利幸

新井 佐守

十万円

金子 徳成

加藤 幸子

齋藤 定吉

高橋幸一郎

清水 章子

渋谷 守

大野 浩平

長坂 均

小林長一郎

細沼 徳彦

細沼 武彦

西角井正大

須田美和子

鈴木ふじ子

井上 光道

小峯 康則

谷島 國高

小森 繁英

五万円

佐藤 峰子

吉田 公一

宮路 宜和

野村 勇

本島紋次郎

許斐 輝幸

許斐 克美

柳澤 宏

野口ひろ子

永井 怜子

大隅 啓司

柳澤千代子

小嶋 初子

島村 剛

島村まちか

島村 正彦

島村 敏彦

白川 富一

五万円

小川 章

小川 和里

日野 久枝

渡邊 清一

小島 清好

萩原 衛

柴崎 裕一

佐藤 利夫

石坂 弘子

柴田 茂次

太田 彬

大崎智恵子

本橋 清子

木村 裕一

木村 香織

木村 咲穂

社頭往来

正月初詣

平成二十九年の正月は好天に恵まれ、三が日で二二五万人の人出で賑いました。一日の歳旦祭、二日の日供始祭、三日の元始祭とも滞りなく斎行し、一日



の大宮薦職組合の梯子乗り、三日の能楽研究会による謡初は多くの参拝客の耳目を集めました。

消防訓練

文化財防火デーの前日一月二十五日、大宮消防署様の協力を頂き楼門内にて防災訓練が行われました。神輿庫で出火の想定、元、避難誘導や初期消火、通報、放水等、地域住民含め約百名での訓練となりました。



節分祭 撒豆式



前日までの寒風が落ち着いた二月三日は十時に節分祭が厳かに、十二時半、二時の撒豆式は賑やかに執り行われました。特別年男の落語家の柳家小袁治師匠、陸奥部屋力士の他、大宮アルディージャのアルディ君やテレビ埼玉のテレ玉君の撒く福に大人も子供も大賑わいでした。

的行事



節分祭とは対照的に朝から吹き荒れる風の収まらぬ中、十時より祭典が行われました。本殿祭の後、三の鳥居内に設営された奉射場にて神職十二名、大宮弓道連盟の先生九名により奉射の儀が行われました。

復興祈願雅楽演奏

平成二十三年に発生した東日本大震災より六年が経った三月十一日、舞殿に於きまして犠牲者を哀悼し復興への道のりを歩む方々に心を寄せて雅楽



の演奏を行いました。同時刻に参拝された皆様も神秘的な面持ちで祈りを重ねておられました。

- 演奏曲目
- ・平調 音取 越殿楽 五常楽
- ・浦安の舞

埼玉県神社庁主催 『神主さんと神社を学ぼう』

去る三月二十六日当社境内にて教化事業『神主さんと神社を学ぼう』が開催されました。あわせて参道では大宮の有名店が並ぶ『氷川マルシェ』、『さんきゅう参道2017』が開催されました。神道についての説明や県内神社の紹介、雅楽演奏の他、県内神社の御朱印展など様々な角度から神道に接する事業となりました。当日は雨となりましたがおよそ一万人の方に御来場を頂きました。



奉祝・宮繕事業

西廻廊建設

平成二十八年八月二十五日より着工、九月十六日に地鎮祭を



斎行した西廻廊建設工事は順調に進行しております。竣工予定は四月二十一日の予定です。

酒造組合狐樽奉納

埼玉県酒造組合様より加盟する酒造会社の狐樽の御奉納を頂きました。県内には三十五社の酒造会社がありその内、協賛会社二十五社、二十六種の銘柄が並んでおります。

一月二十三日には小山景市会長始め協賛会社の代表者など約三十名で正式参拝を行われました。



西駐車場 整備事業



一昨年来、取り組んで参りました西駐車場の整備が完了し、新たに太鼓橋が架けられ、渡初

め式が去る平成二十八年十二月二日に斎行されました。駐車台数は約六十台で御本殿に一番近い駐車場となっております。尚、正月三が日、大湯祭本祭の十二月十日は他の駐車場同様使用出来ません。

本拝殿 舞殿修繕

御親祭百五十年祭に向けた宮繕工事の一環として経年劣化の目立っておりました本拝殿の擬宝珠や御扉の金細工の修繕、また本殿及び舞殿の亀腹の修復、舞殿欄干の塗工を行いました。



埼玉県神社庁舎竣工



新たに新設された西駐車場の南部に埼玉県神社庁舎が竣工致しました。昭和二十一年に設立された埼玉県神社庁は当初、当社社務所内に設立されましたが昭和三十七年に神社会館に移転致しました。長年の老朽化や耐震性の不安などから新庁舎設立の運びとなりました。主な祭典は左記の通りとなっております。

記

- 平成二十八年
 - 三月 三日 地鎮祭
 - 六月二十日 上棟祭
- 平成二十九年
 - 三月 十日 神殿鎮座祭
 - 五月十二日 竣工奉告祭

奉納献花

一月の奉納献花

古流松藤会 岩波理豊

草月流 川嶋理智

桂古流 冲山草俊

正風流一光会 竹下尚峰

春草流 小林華侑

二月の奉納献花

古流松藤会 高橋典花

池坊 桐生一光

草月流 豊田春柳

桂古流 岩波理豊

正風流一光会 川嶋理智

春草流 草谷智花

豊田春柳 冲山草俊

小林華侑 竹下尚峰



三月の奉納献花

古流松藤会 岩波理豊

池坊 川嶋理智

桂古流 草谷智花

正風流一光会 小林華侑

春草流 高橋典花

三月の奉納献花

古流松藤会 竹下尚峰

池坊 桐生一光

草月流 豊田春柳

桂古流 岩波理豊

正風流一光会 川嶋理智

春草流 草谷智花

豊田春柳 小林華侑



正式参拝

(敬称略)

一月

八日 靖国神社宮司

九日 清水勇人(さいたま市長)

十九日 氷川神社敬神婦人会

二十日 埼玉県神社庁庁長

二十一日 解脱会埼玉教区女性部

二十二日 今泉神社総代会(東京都)

二十三日 埼玉県酒造組合

二十五日 神道婦人会

三十一日 立正佼成会大宮教会

二月

五日 阿含宗埼玉道場

十三日 大宮西ロータリークラブ

十八日 高鼻町二丁目自治会

二十五日 六郷神社崇敬会(東京都)

二十六日 厳島神社氏子会(福島県)

三月

四日 大田区若手異業種交流会

八日 茨城県神社庁東茨城郡神社総代会南部部会

八日 田村八坂神社氏子会(神奈川県)

十一日 武蔵菊花会

二十四日 静岡県神社庁東部地区教化委員会

二十八日 相模国式内社顕彰会

二十九日 全国一の宮会 役員会

祭典予定

昭和祭	四月二十九日
月次祭	五月一日
祝子祭	五月五日
御鎮座祭	五月九日
献詠祭	五月十五日
道饗祭	五月二十一日
月次祭	六月一日
粽神事	六月五日
献詠祭	六月十五日
大祓式	六月三十日
月次祭	七月一日
献詠祭	七月十五日

第8回 The 8th WORLD BONSAI CONVENTION, SAITAMA CITY
世界盆栽大会
in さいたま



来る4月27日より世界盆栽大会がさいたまスーパーアリーナで開催され、当社境内もサブ会場として盆栽が展示されます。

約30年ぶりに日本で開催される世界盆栽大会に是非足をお運び下さい。



新規授与品のお知らせ

此の度新たに「結守」を奉製致しました。

平成二十九年三月下旬より当社で婚礼を挙げられた新郎新婦様に授与しております。尚、有料での授与は行っておりませんのでご了承下さい。

第三十六回 大宮 薪能 TAXIGI-NOH

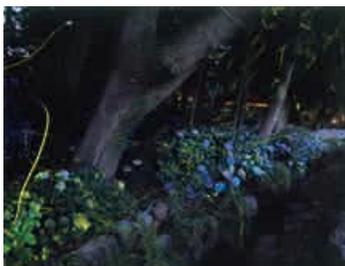
第1日目 5/26(金)
第2日目 5/27(土)

開演時間 午後5時40分
武蔵一宮氷川神社境内
〔羽衣〕
(雨天の場合は市民会館おみや大ホール)

第3回

氷川ほたる観賞会
のお知らせ

来る6月3日、4日「氷川ほたるの杜」の皆様により第3回氷川ほたる観賞会が開催されます。詳しくは同会ホームページをご参照下さい。



発行 平成29年4月15日 発行所 氷川神社社務所
写真協力 宮野信昭 中村写真館
印刷所 株式会社 秀飯舎
さいたま市大宮区高鼻町1-407 電話 048-641-0137
<http://www.musashiichinomiya-hikawa.or.jp/>